

新潟市潟環境研究所 平成27年度第4回定例会議（概要）

日時：平成27年11月19日（木）午後2時～午後5時15分

場所：じゅんさい池及び東区役所会議室

■会議概要

1 報告及び情報提供

- ・「潟の魅力創造市民活動補助金」について（水と土の文化推進課）
- ・「赤塚中学校 地域の作品展示会」について（太田研究補助員）

※講義の前に、10年以上じゅんさい池の自然環境・生物保全にかかわっている当研究所の井上信夫研究補助員より、じゅんさい池の自然についての説明がありました。

「じゅんさい池の自然 現状と課題」について（井上信夫 研究補助員）

- ・じゅんさい池公園は市街地に残された貴重な自然であり、野生生物の生息空間としても重要な存在である。しかし、昨今は外来種（オオクチバス、コイ、ミシシippアカミミガメ、園芸スイレンなど）の侵入が、在来種の生育・生息に大きな影響を及ぼしている。
- ・例えば、2004年まで観察されていたタヌキモは現在観察することができない。その理由として、雑食性のコイ（飼育されていた個体）による食害や、競合する外来植物（ハゴロモモなど）の繁茂による影響が考えられる。
- ・一方で、人が持ち込んだ外来生物による影響だけでなく、人自身の行動も生物種に大きな影響を与えている。2014年まで生息が確認されていたオオタカは、今年から確認できなくなった。これは、観察者の過度な接近により、オオタカの生息空間を圧迫したことが原因の一つであると考えられる。じゅんさい池公園では今後、在来動植物を守り育てるための対策を考えていく必要がある。
- ・じゅんさい池公園は全国的に見てもめずらしい、砂丘上にある水辺を中心とした都市公園である。遊具があって遊べるような普通の都市型公園ではなく、その自然環境を生かした、学ぶことのできる都市公園として維持管理していくのがよいのではないか。

2 講義

「都市における公園の在り方 都市型公園の小金公園と自然型公園のじゅんさい池公園のかかわり方」

（五十嵐初司/東山の下地区コミュニティ協議会・じゅんさい池公園を守る会）

- ・東山の下地区コミュニティ協議会が維持管理にかかわっている公園は、^{こがね}小金公園（松和町）とじゅんさい池公園である。
- ・小金公園は地域の防災拠点として市の一時避難場所に指定されており、前年度、コミ協でも防災の基幹公園として位置づけた。
- ・コミ協は普段、小金公園の清掃管理を行っているが、今年は、一時避難場所として地域住民に広く認知してもらうことを目的とし、東山の下フェスティバルも開催した。
- ・じゅんさい池公園もまた、大規模災害時の避難場所、広域避難場所として指定されている。しかし、こちらも地域住民へ周知されているとはいえない。実際に災害が起きた際、果たして本当に避難できるのか、という懸念があった。この防災の観点がきっかけとなり、じゅんさい池公園へのコミ協のかかわり方について、改めて模索するようになった。
- ・じゅんさい池公園は砂丘湖を中心とした多くの生物種の生育・生息場所であることから、それにかかわるたくさんの組織・団体が現地で活動を行っている。
- ・地域のコミュニティ協議会だけがかわっている小金公園と異なり、じゅんさい池公園では、コミ協、ボランティア、公園利用者等、立場の異なる団体、人々が数多く存在するため、公園利用についての意見の統一が難しかった。

・そこで、じゅんさい池公園そのものの在り方、方向性について検討していく前段階として、様々な意見を吸い上げる場をつくることを目的に、平成26年4月17日に「じゅんさい池公園を守る会」を設立した。いずれは拡充できればと考えているが、まずは東山の下地区コミュニティ協議会の環境衛生部会のメンバーが主体となって、活動を始めたところである。

・じゅんさい池公園のあり方と今後の方向性を決めていくにあたって、現在、じゅんさい池公園にかかわっている団体だけでは専門知識が十分でないので、まちづくりや公園整備、生物・環境保全等、それぞれの専門家の方からアドバイスを聞いていきたい。

・昨年度、今年度と実施している「じゅんさい池公園ニセアカシア伐採及び赤松植林事業」は、東区役所と東山の下地区コミュニティ協議会（じゅんさい池公園を守る会）の協働事業である。伐採木は産業廃棄物として出してはいけないといった取り決めもあり、個人利用のストーブや地域の災害時用の薪といった、伐採木の有効的な利用方法をコミ協から提案した。

・小金公園やじゅんさい池公園は東山の下地域のオアシスであり、コミ協としては、日常的な活用と維持に努めたいと考えている。しかし、じゅんさい池公園のあり方について考えるには、スタートラインに立ったばかりである。植林事業のような具体的な投げかけがあると、自分たちの役割を認識することができ、それに応じた行動に移すことができるためありがたい。

・現在は行政主体だが、行政とコミ協が協働してじゅんさい池公園の維持管理を行っていくのが理想と考えている。

今回の定例会議では、中村忠士さん（「じゅんさい池公園を守る会」）による案内のもと、じゅんさい池公園の現地見学も行いました。



東池で解説を聞く様子



西池にある上道神社裏でのアカマツ植栽



池の植物を調査



西池で採取したジュンサイの冬越しの芽